

平成24年度経済文教委員会所管事務調査活動報告

1 選定した調査項目

調査項目	(1) 学校における子どもの読書環境について
選定目的又は理由	学校図書館資料による子どもの教育の充実とともに、読書により子どもに人間力、生きる力を身につけさせることが重要であるとの考えから、本市の学校における子どもの読書環境について調査を行った。

2 活動実績

日時	活動概要
平成24年5月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の調査研究テーマの抽出（打ち合わせ会） ◎学校における子どもの読書環境について ◎コミュニティバスについて ◎有害鳥獣対策について ※学校における子どもの読書環境についてを主項目とした。
平成24年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書教育と文化芸術について（勉強会）
平成24年7月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県柏市「子どもの読書教育と文化芸術について」（行政視察） 1 柏市子ども読書活動推進計画について 2 柏市学校図書館の指導員の活動について 3 学校図書館司書について 4 市民ギャラリーについて 5 資料展示室の開催について
平成24年7月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県ひたちなか市「スマイルあおぞらバスについて」（行政視察） 1 公共交通の利用状況について 2 コース選定・コース変更のプロセスについて 3 各コースの循環時間について 4 利用促進策（回数券発行など）について 5 高齢者運転免許自主返納事業との連携の効果について
平成24年7月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県沼田市「有害鳥獣対策について」（行政視察） 1 モンキードッグ育成事業について 2 野猿動向調査事業について 3 有害鳥獣捕獲事業について
平成24年8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の調査の進め方について（打ち合わせ会）
平成24年8月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会へ「学校図書館に関するアンケート」調査を依頼
平成24年10月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県学校図書館研究大会へ参加
平成24年12月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果と今後の調査の進め方について（打ち合わせ会）

平成25年1月19日	・各小中学校図書館の現地調査
平成25年1月24日	・平成24年度経済文教委員会所管事務調査報告書について（打ち合わせ会）
平成25年1月27日	・聞き取り調査（愛知県学校図書館研究会会長、巡回司書、ボランティア）
平成25年1月31日	・聞き取り調査（中央図書館）
平成25年3月8日	・平成24年度経済文教委員会所管事務調査報告書のまとめについて（打ち合わせ会）

3 調査項目に対する関係各部署への意見、要望

(1) 学校における子どもの読書環境について

①学校図書館の整備について

- ・ 図書室の位置については、現在、校舎の端や奥まった場所などが多いため、今後、改築・改修の際などに、学校の中で最も子どもが集まりやすい場所に移し、利用をすすめる、すぐにでも移動可能ならば、早めに対応することが望ましいと考える。
- ・ 中学校において、図書室が施錠されていて自由に入出入りできないという状況があるため、いつでも開放することが望ましいと考える。
- ・ 子どもの調べ学習は、情報室（パソコン室）と図書室の併用が多いため、隣接して設置するよう、順次改善をしていくことが望ましいと考える。
- ・ 書架に不備のある学校への工夫を凝らした対応が必要と考える。
- ・ 図書室の雨漏りなどは早急に修繕が必要と考える。

②図書等の配置について

- ・ 図書標準を満たすために、各学校において計画完了までの企画書を作成することが望ましいと考える。
- ・ 選書については、プロの目と教師、子どもの意見を取り入れて実施していくことが望ましいと考える。
- ・ 新聞（主要紙）の配備は必要であり、財政措置もされているため、早急に配備することが必要と考える。

③司書について

- ・ 巡回司書が4年目で10人になり、成果があるとの声が多く聞かれますが、1カ月に2回程度では少なすぎるため、巡回の回数を増やしたり、専任司書を各中学校に1人ずつ配置するなどの対応が望ましいと考える。
- ・ 中央図書館が巡回司書の相談やスキルアップに責任を持っていただくことが必要と考える。

④ボランティアについて

- ・ 中央図書館が本市のあらゆる年齢の子どもの読書活動の活性化策を担っていただく必要があると考える。
（赤ちゃん・幼児への読み聞かせ、小・中学校での読み聞かせ、NIE活動など）
- ・ 本市で1,000人の読書関連ボランティアの育成と、毎年スキルアップ講座を複数回開催し、本市の子どもの生きる力の向上につなげることが望ましいと考える。

⑤予算について

- ・ 本市において図書標準を達成している学校は現在9校であり、全体の25%となっている。全学校が図書標準を達成するまで、できる限りの予算配分を望む。